

EVM User's Guide: ADC3663EVM, ADC3664EVM, ADC3683EVM

ADC36xx 評価基板



説明

ADC36xx 評価モジュール (EVM) は、ADC3663、ADC3664、および ADC3683 を含む、高速アナログ-デジタルコンバータ (ADC) ファミリの評価を目的として設計されています。これらはいずれもシリアル低電圧差動信号 (LVDS) インターフェイスを備えています。

設計を開始

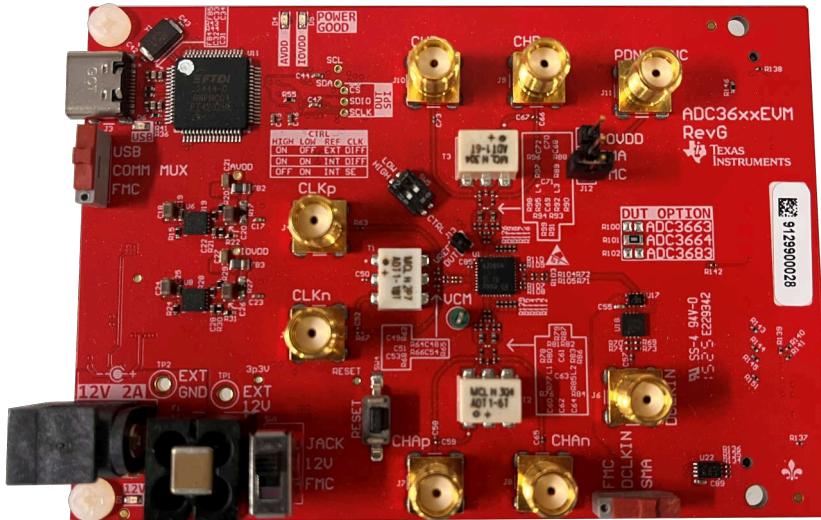
1. [ADC3663EVM](#)、[ADC3664EVM](#)、または [ADC3683EVM](#) をご注文ください
2. データシートの最新版をダウンロードしてください
3. 最新のソフトウェアのダウンロードしてください
4. EVM のツールページから、総合的なリファレンスデザインファイルをダウンロードしてください

特長

- オンボード バランを使用した AC 結合アナログ入力に対して、シングルエンドおよび差動入力の両方のオプションを提供
- サンプリング クロック入力に対しても、シングルエンドおよび差動入力の両方のオプションを提供
- 外部 12V 接続による給電と、オンボード電源レギュレーションを備えています
- USB-C 接続または FMC コネクタを介して、スイッチ制御による柔軟な ADC 設定が可能
- FMC コネクタは、TI データキャプチャカードまたは他社製 FPGA 開発キットとのインターフェイスとして機能

アプリケーション

- ソフトウェア無線
- 通信インフラ
- スペクトル アナライザ
- 医療 / ヘルスケア
- 制御システム



ADC36xxEVM

1 評価基板の概要

1.1 はじめに

ADC36xxEVM は、テキサス・インスツルメンツ製のアナログ-デジタル コンバータ (ADC) ファミリである ADC36xx の評価に使用される評価ボードです。ADC36xx は、シリアル LVDS インターフェイスを使用してデジタル データを出力します。ADC36xx は、内部デシメーション フィルタを用いた「オーバーサンプリング+デシメーション」モードで動作させることで、ダイナミックレンジを向上させることができます。

EVM はデフォルトで、AC 結合トランス (バラン) 入力を介してサンプリング クロックおよびアナログ入力の外部信号を受け取るように構成されています。このトランスはシングルエンドから差動への変換を行い、低ノイズかつ低歪のパッシブ入力を提供します。

このユーザー ガイドでは、ADC36xx 評価モジュール (EVM) の特性、動作、および使用方法について説明します。さらに、ソフトウェアおよびハードウェアのセットアップと構成方法についても解説します。

1.2 キットの内容

EVM 評価キットには、以下の機器が同梱されています。

表 1-1. 同梱機器

項目	説明	数量
ADC36xxEVM	PCB	1
DC ジャック電源ケーブル	ケーブル	1
USB-C ケーブル	ケーブル	1
JTAG ドングルおよび Micro USB ケーブル	PCB およびケーブル	1

1.3 製品情報

ADC36xxEVM には、LVDS 出力インターフェイスを備えたこのファミリのデバイスをカバーする 3 種類のバリエントがあります。それぞれは ADC3683EVM、ADC3664EVM、および ADC3663EVM です。

以下は、これらの各 EVM バリエントで評価可能なデバイスの一覧です。

表 1-2. ADC3683EVM を使用して評価するデバイス

ADC3683EVM			
デバイス	チャネル数	分解能	最大サンプルレート
ADC3683	2	18	65MHz
ADC3682	2	18	25MHz
ADC3681	2	18	10MHz
ADC3583	1	18	65MHz
ADC3582	1	18	25MHz
ADC3581	1	18	10MHz

表 1-3. ADC3664EVM を使用して評価するデバイス

ADC3664EVM			
デバイス	チャネル数	分解能	最大サンプルレート
ADC3664	2	14	125MHz
ADC3564	1	14	125MHz

表 1-4. ADC3663EVM を使用して評価するデバイス

ADC3663EVM			
デバイス	チャネル数	分解能	最大サンプルレート
ADC3663	2	16	65MHz
ADC3662	2	16	25MHz
ADC3661	2	16	10MHz
ADC3563	1	16	65MHz
ADC3562	1	16	25MHz
ADC3561	1	16	10MHz

2 ハードウェア

本セクションでは、ADC3663、ADC3664、および ADC3683 各バリアント EVM を含む ADC36xxEVM を効果的に使用するために必要なハードウェア ツールおよび接続について詳述します

2.1 必要なハードウェア

以下の機器は EVM 評価キットには含まれていませんが、この EVM を評価するために必要です。

- TSWDC155EVM データキャプチャ ボードおよび関連機器
- アナログ入力、サンプル クロック、および DCLKIN 信号用の低ノイズ信号発生器 3 台(これらの信号発生器は同一のリファレンス周波数を共有する必要があります)
- 希望するサンプル クロック周波数およびアナログ入力周波数に対応したバンドパス フィルタ 2 個。
- 12V、1A を供給可能な電源装置 1 台。
- Microsoft® Windows® 10 または 11 が動作する PC。

TI は、アナログ入力およびクロック入力用として、以下の低位相ノイズ信号発生器を推奨しています。

- Rohde & Schwarz SMA100A
- Rohde & Schwarz SMA100B
- Keysight E8257D
- Hewlett Packard HP8644B
- Rohde & Schwarz SMHU
- またはこれらと同等の機器

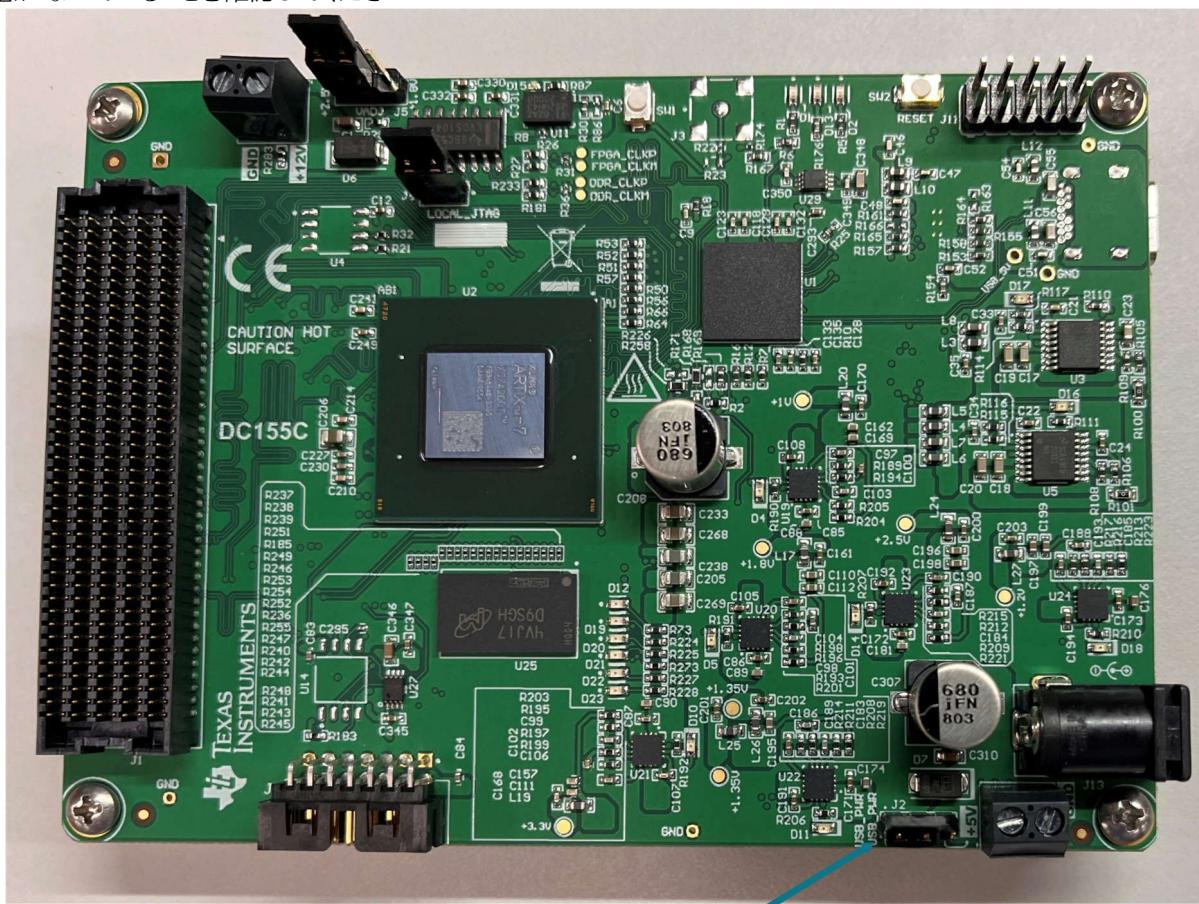
すべての信号発生器には、スプリアス成分やノイズを除去するためにバンドパス フィルタが必要です。ただし、DCLKIN 入力にはバンドパス フィルタは不要です。バンドパス フィルタを使用しない場合、ADC の真の性能を必ずしも十分に確認できず、使用している信号発生器の性能によって結果が制限されます。

使用的するバンドパス フィルタは、以下の特性を備えていることが推奨されます。

- 高調波減衰量: 60dB 以上
- 帯域幅: 10% 以下
- 許容電力: 18dBm 超
- 挿入損失: 5dB 未満

2.2 ハードウェア設定

1. ADC36xxEVM を FMC コネクタ経由で TSWDC155EVM に接続します。
2. 付属の USB-C ケーブルを使用して、PC と ADC36xxEVM 上の J3 USB-C コネクタを接続します。
3. 付属の USB-C ケーブルを使用して、PC と TSWDC155EVM 上の J8 USB-C コネクタを接続します。
4. Micro USB ケーブルを JTAG ドングルに接続し、その JTAG ドングルを TSWDC155EVM 上の JTAG ヘッダ J7 に接続します。その後、Micro USB ケーブルを PC に接続します。
5. TSWDC155EVM 上のジャンパ J2 がピン 1-2 間に装着され、USB-C コネクタ経由でボードに電源が供給される状態になっていることを確認してください



Jumper J2
Connected across
Pins 1-2

図 2-1. TSWDC155EVM ジャンパ J2

6. ADC3664EVM 上のスイッチおよびジャンパが、以下の設定になっていることを確認してください。

- 12V 電源スイッチ (SW1) がジャック側に切り替えられていること。
- 通信 Mux スイッチ (SW2) が USB 側に切り替えられていること。
- DCLKIN スイッチ (SW3) が SMA 側に切り替えられていること。
- VREF CTRL スイッチバンク (SW5) 上の両方のスイッチが「ON」に設定されていること。
- VREF ジャンパ (J13) が装着されていること。
- PDN/SYNC ジャンパ (J12) が接続されていないこと。

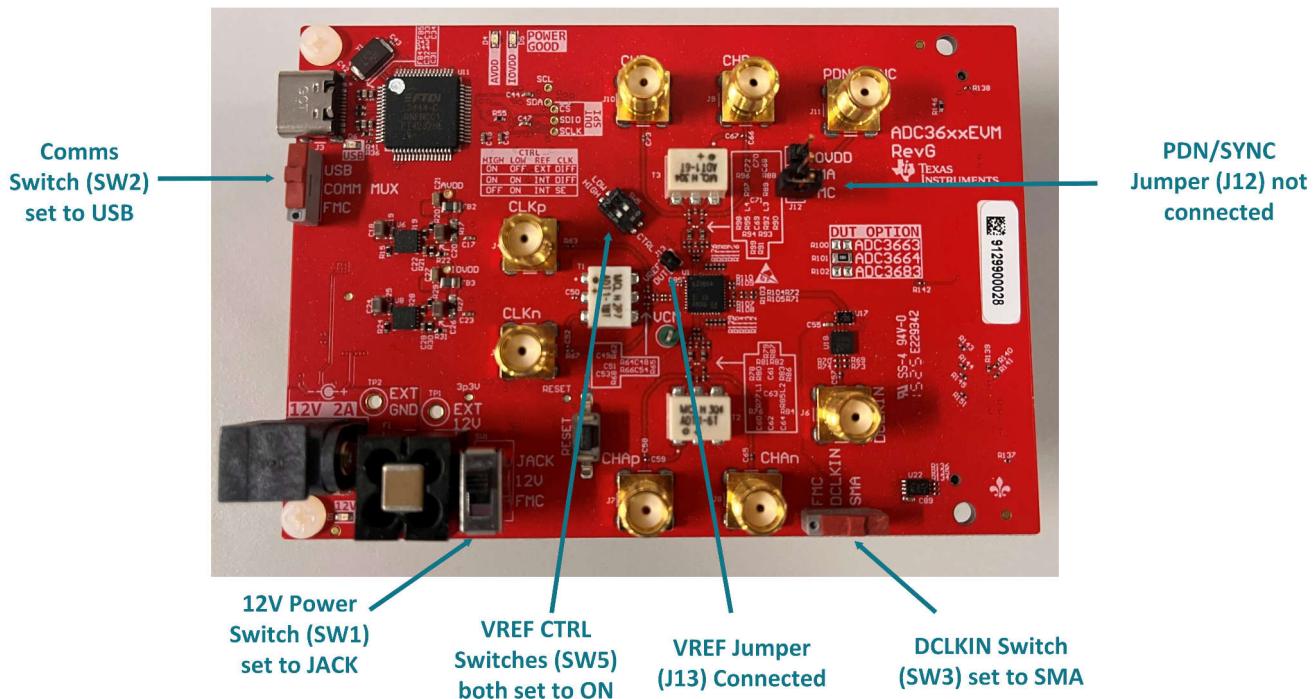


図 2-2. ADC36xxEVM のスイッチおよびジャンパ設定

3 ソフトウェア

本セクションでは、ADC3663、ADC3664、および ADC3683 各バリアント EVM を含む ADC36xxEVM を効率的に使用するために必要なソフトウェア ツールおよびアプリケーションについて詳述します。

3.1 必要なソフトウェア

ADC36xxEVM を評価するために必要なソフトウェアは以下のとおりです。

- [ADC36xxEVM GUI](#)
- テキサス・インスツルメンツ [HSDC Pro](#) ソフトウェア
- [Vivado Lab](#) ソリューション

3.2 ソフトウェアの設定

1. ADC36xxEVM LVDS GUI をダウンロードしてインストールします。
 - a. ADC36xxEVM LVDS GUI をインストール中に、FX3 USB ドライバも併せてインストールされていることを確認してください。
2. HSDC Pro をダウンロードしてインストールします。キャプチャしたデータを表示するのに使用されます。
3. また、AMD のウェブサイトから Vivado Lab ソリューションをダウンロードしてインストールしてください。これは、FPGA からデータをキャプチャするために必要になります。
4. Vivado Lab の bin フォルダがシステム環境変数 PATH に追加されていることを確認してください。
 - a. スタートメニューで「システム環境変数の編集」を検索します
 - b. 「Environment Variables...」(環境変数...)を選択します
 - c. 「System variables」(システム環境変数)の一覧から「Path」(パス)変数を探して選択します
 - d. 「Edit...」(編集...)を選択します
 - e. 「New」(新規)をクリックして、新しいパスを追加します
 - f. インストール先およびバージョンに応じて、Vivado Lab のインストール ディレクトリのパスを追加します。bin フォルダへのパスは通常、次のようにになります。`C:\Xilinx\Vivado_Lab\2023.1.1\bin`

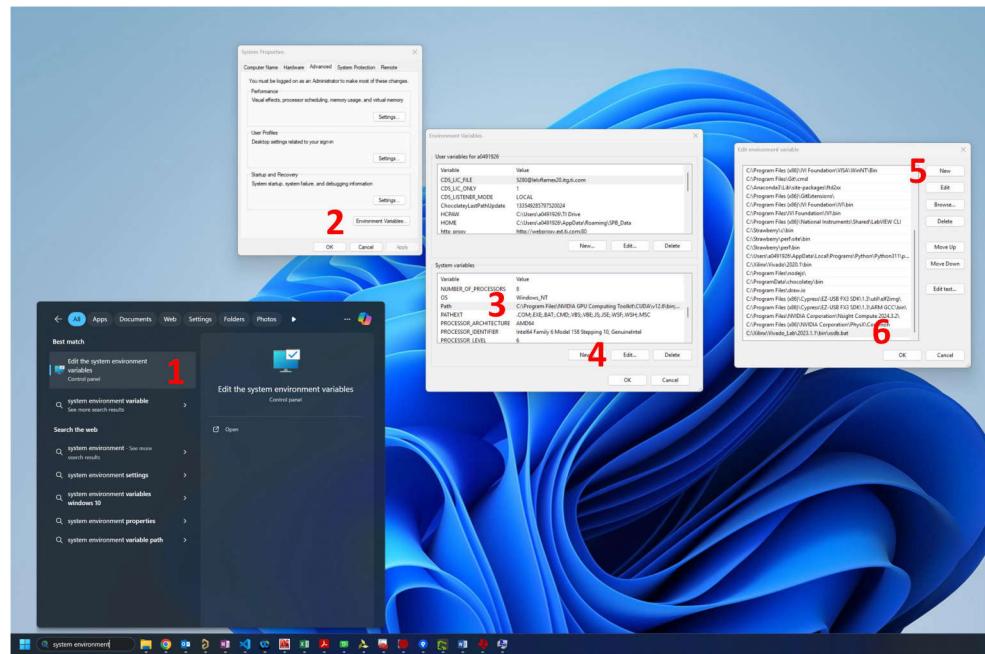


図 3-1. 環境変数の設定

4 セットアップ手順

以下のセットアップ手順では、ADC36xxEVM の 3 種類すべてのバリエントを評価するために必要なハードウェアおよびソフトウェアのセットアップ方法と使用手順について詳しく説明します。

4.1 ADC3683EVM のセットアップ

1. ソフトウェアが「ソフトウェア セットアップ」セクションに従って正しく設定されていることを確認してください。
2. ハードウェアが「ハードウェア セットアップ」セクションに従って正しく構成されていることを確認してください。
3. CLK 信号を供給するには、以下の手順を実施します。
 - a. SMA ケーブルおよびインライン 65MHz バンドパス フィルタを使用して、信号発生器を ADC3683EVM 上の CLKn SMA コネクタ (J5) に接続します。
 - b. 信号発生器の出力信号周波数を 65MHz、信号振幅を +10dBm に設定します。
4. EVM はデフォルトでシングルエンド入力に対応しているため、アナログ入力はチャンネル A 用の CHAp コネクタ (J7) またはチャンネル B 用の CHBp コネクタ (J9) に入力してください。アナログ入力を供給するには、以下の手順を実施します。
 - a. SMA ケーブルおよびインライン 5MHz バンドパス フィルタを使用して、信号発生器をアナログ入力チャンネル A に接続します。
 - b. 信号発生器の出力信号周波数を 5.135MHz (素数) に、出力レベルを 0dBm に設定します。
5. DCLK 信号を供給するには、次の手順を実施します。
 - a. SMA ケーブルを使用して、信号発生器を DCLKIN SMA コネクタ (J6) に接続します。
 - b. 信号発生器の出力周波数を 292.5MHz (18 ビット、2 ワイヤ、DDC バイパス) に設定し、信号振幅を +2dBm に設定します。
6. クロック、アナログ入力、および DCLK 用のすべての信号発生器が、背面の 10MHz リファレンス出力を使用してリファレンス ロックされていることを確認してください。この例については、下図を参照してください。

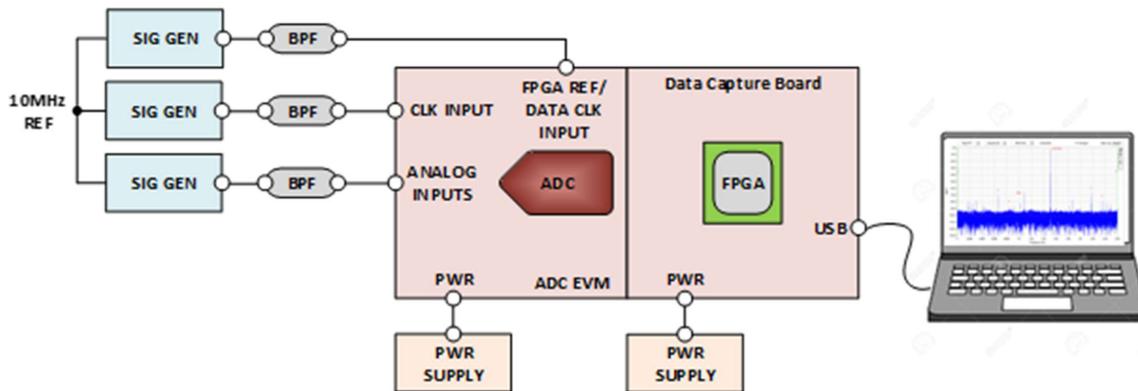


図 4-1. 基本テスト測定セットアップ

7. セットアップは以下のようになります。

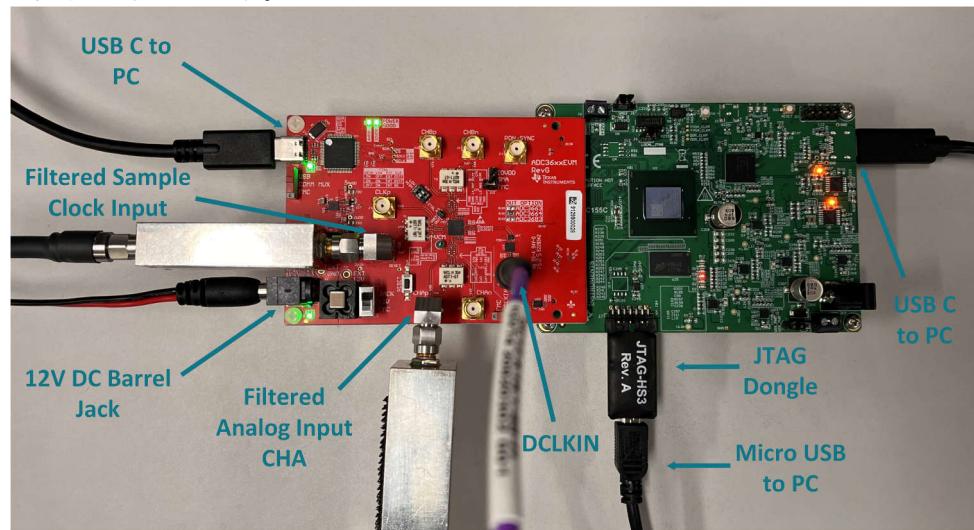


図 4-2. ADC3683EVM のハードウェア設定

8. HSDC Pro を起動します。ADC36xxEVM GUI を開く前に、必ず HSDC Pro が起動していることを確認してください。
 9. ボードへの接続を求めるメッセージが表示された場合は、「cancel」(キャンセル) を選択します。GUI は、その他の HSDC Pro に関するキャプチャおよび設定操作をすべて自動で処理します。

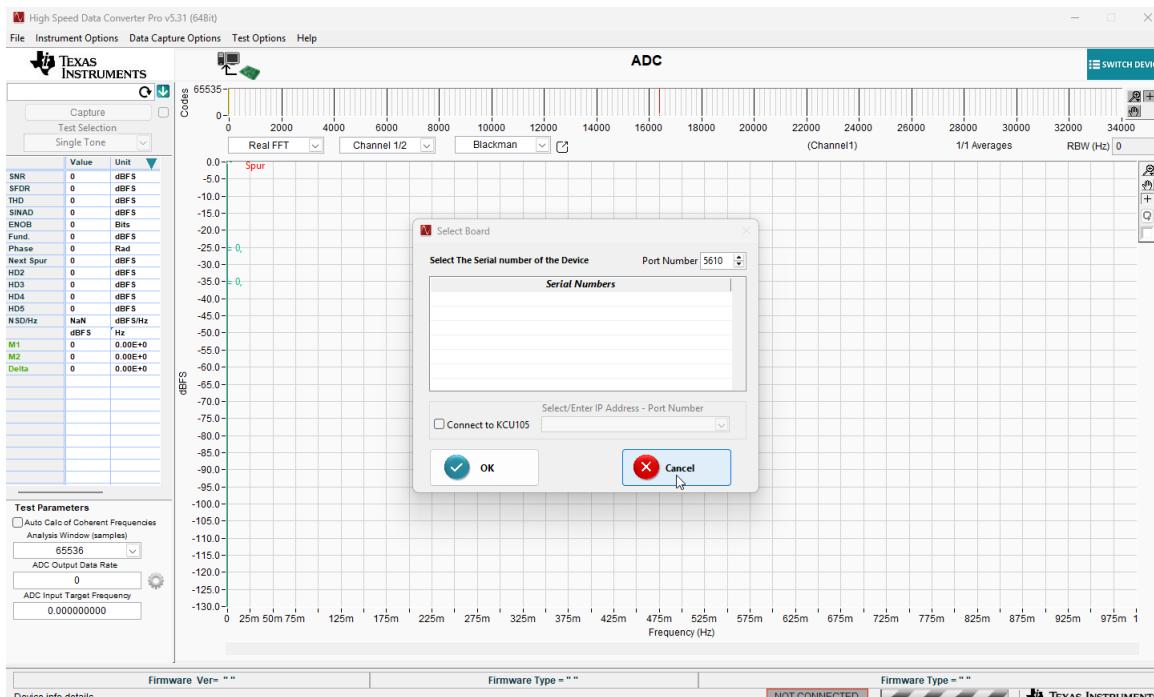


図 4-3. HSDC Pro

セットアップ手順

10. ADC36xxEVM GUI を起動します。GUI が TSWDC155EVM FPGA キャプチャボードに接続するまで、数秒待機してください。接続が確立されると TSWDC155EVM の電源が入り、下図のように複数の LED が点灯するようになります。

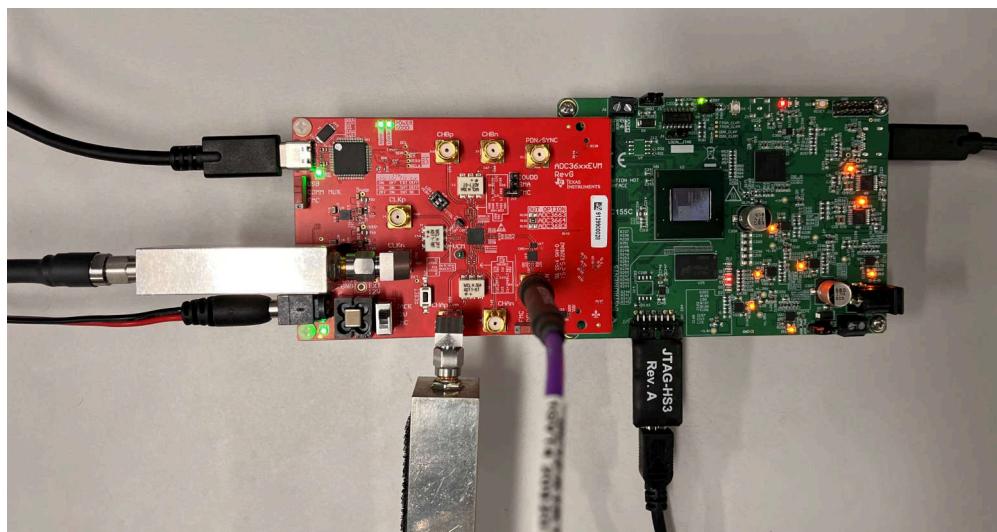


図 4-4. TSWDC155EVM の電源がオンになった状態

11. GUI ウィンドウが開いたら、目的のモードに応じて設定を行うことができます。デフォルトでは、GUI は 2 線式バイパスモードに設定されています。これら 2 つのデフォルト設定はそのまま問題ありません。バリアントを ADC3683、分解能を 18 ビット、クロッキングサンプル周波数を 65MHz に設定してください。

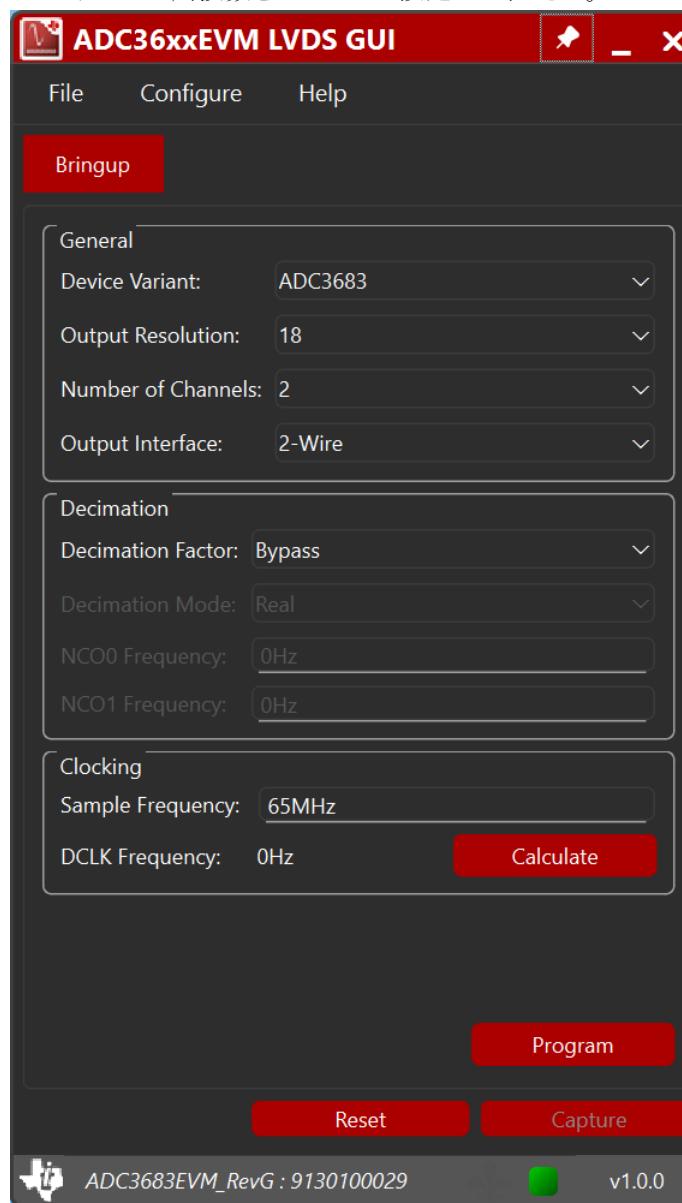


図 4-5. ADC36xx LVDS GUI デフォルト設定(ADC3683 構成時)

12. ADC モードを選択したら、「Calculate」(計算) ボタンを選択して必要な DCLK を計算します。このモードでは、DCLK は 292.5MHz である必要があります。この信号がハードウェア セットアップ上の DCLK 入力に正しく供給されていることを確認してください。

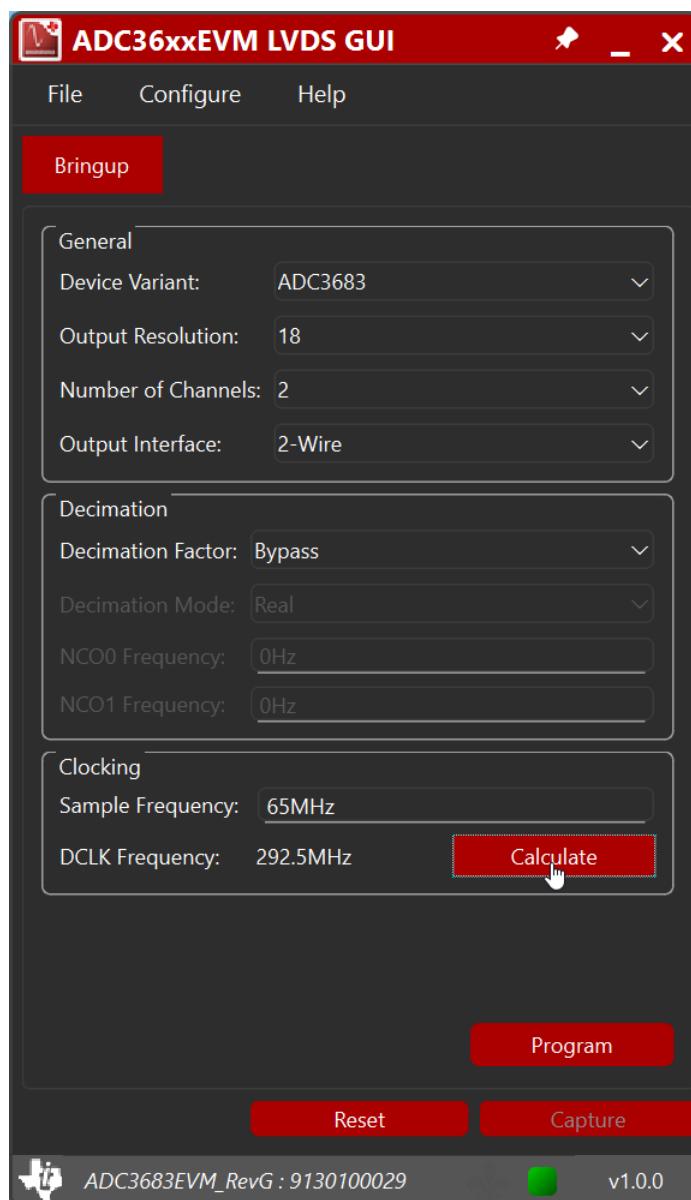


図 4-6. ADC3683 用 DCLK 周波数の計算

13. 「プログラム」ボタンを選択します。ADC のプログラム、FPGA のプログラム、および FPGA フームウェアの構成が完了するまで、数秒待機してください。

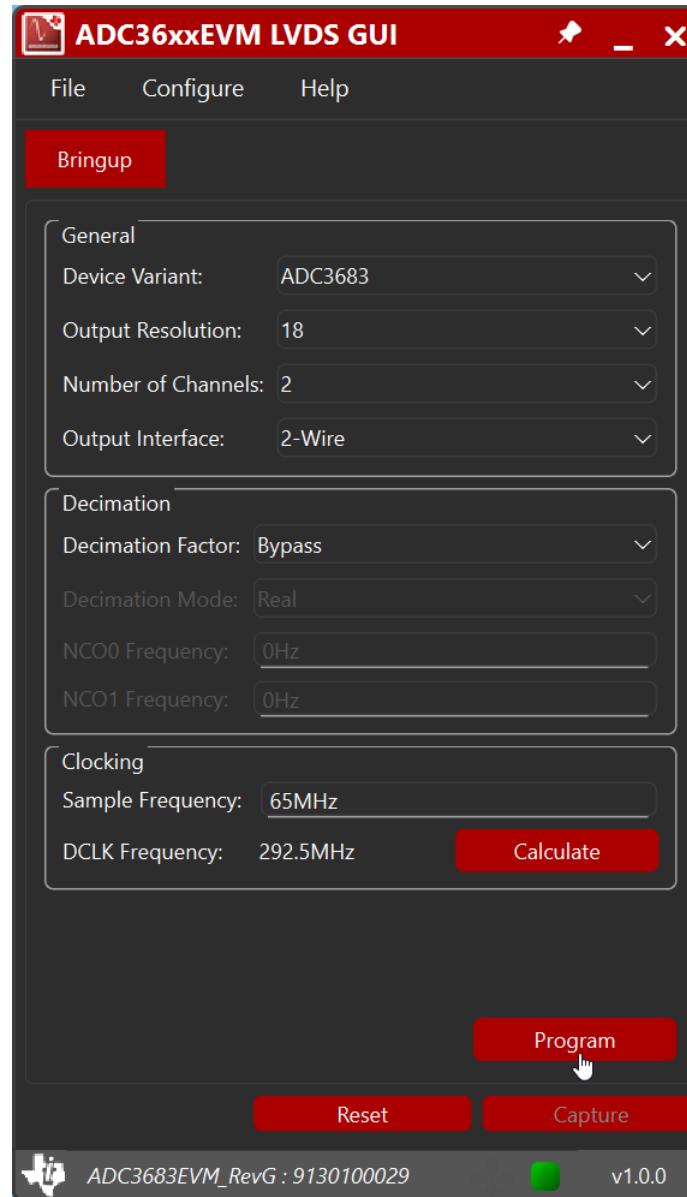


図 4-7. ADC3683EVM のプログラミング

14. プログラミングが完了したら、「キャプチャ」ボタンを選択して FFT データ キャプチャを実行します。

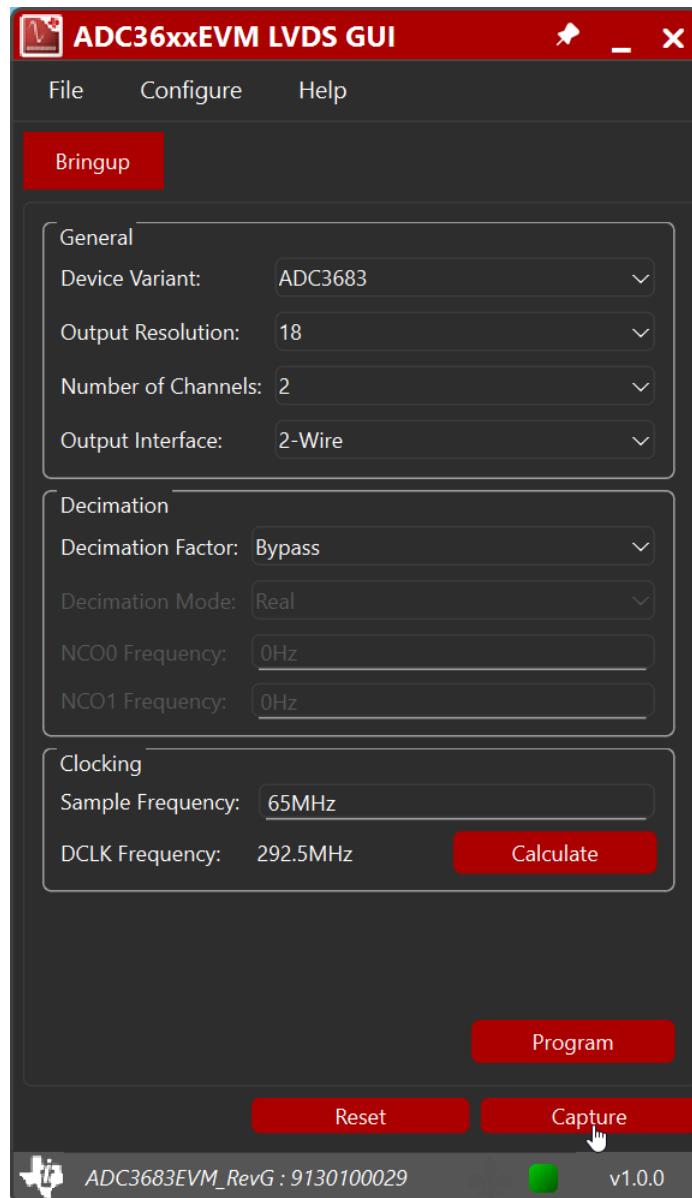


図 4-8. FFT のキャプチャ

15. 数秒後、キャプチャされたデータが HSDC Pro ウィンドウに表示され、デバイスの性能を確認できます。HSDC Pro のその他の機能や詳細については、HSDC Pro ユーザー ガイドを参照してください。

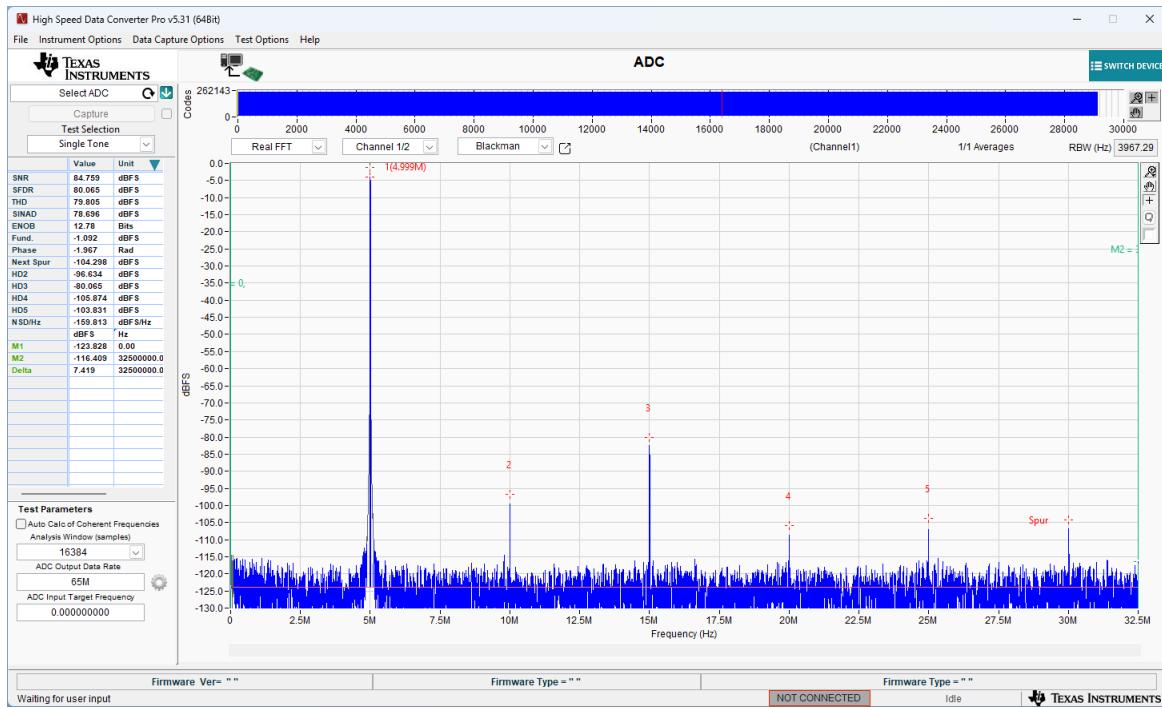


図 4-9. HSDC Pro における ADC3683EVM の FFT データ キャプチャ

16. キャプチャ機能の実行中にエラーが発生した場合は、GUI を再起動し、手順 5~8 を再度実施してください。

4.2 ADC3664EVM のセットアップ

1. ソフトウェアが「ソフトウェア セットアップ」セクションに従って正しく設定されていることを確認してください。
2. ハードウェアが「ハードウェア セットアップ」セクションに従って正しく構成されていることを確認してください。
3. CLK 信号を供給するには、以下の手順を実施します。
 - a. SMA ケーブルおよびインライン 125MHz バンドパス フィルタを使用して、信号発生器を ADC3664EVM 上の CLKn SMA コネクタ (J5) に接続します。
 - b. 信号発生器の出力信号周波数を 125MHz、信号振幅を +10dBm に設定します。
4. EVM はデフォルトでシングルエンド入力に対応するよう構成されているため、アナログ入力はチャンネル A 用の CHAp コネクタ (J7) またはチャンネル B 用の CHBp コネクタ (J9) に入力してください。アナログ入力を供給するには、以下の手順を実施します。
 - a. SMA ケーブルおよびインライン 5MHz バンドパス フィルタを使用して、信号発生器をアナログ入力チャンネル A に接続します。
 - b. 信号発生器の出力信号周波数を 5.135MHz (素数) に、出力レベルを 0dBm に設定します。
5. DCLK 信号を供給するには、次の手順を実施します。
 - a. SMA ケーブルを使用して、信号発生器を DCLKIN SMA コネクタ (J6) に接続します。
 - b. 信号発生器の出力周波数を 437.5MHz (14 ビット、2 ワイヤ、DDC バイパス) に設定し、信号振幅を +2dBm に設定します。

6. クロック、アナログ入力、および DCLK 用のすべての信号発生器が、背面の 10MHz リファレンス出力を使用してリフアレンス ロックされていることを確認してください。この例については、下図を参照してください。

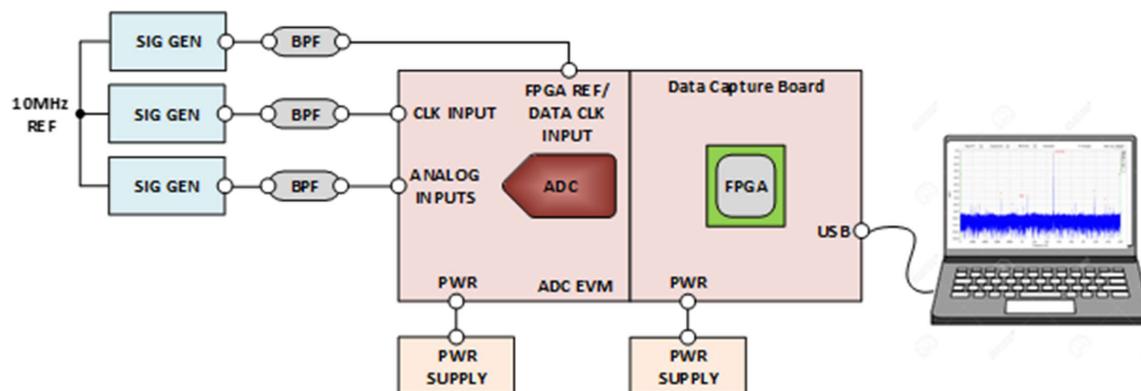


図 4-10. 基本テスト測定セットアップ

7. セットアップは以下のようになります。

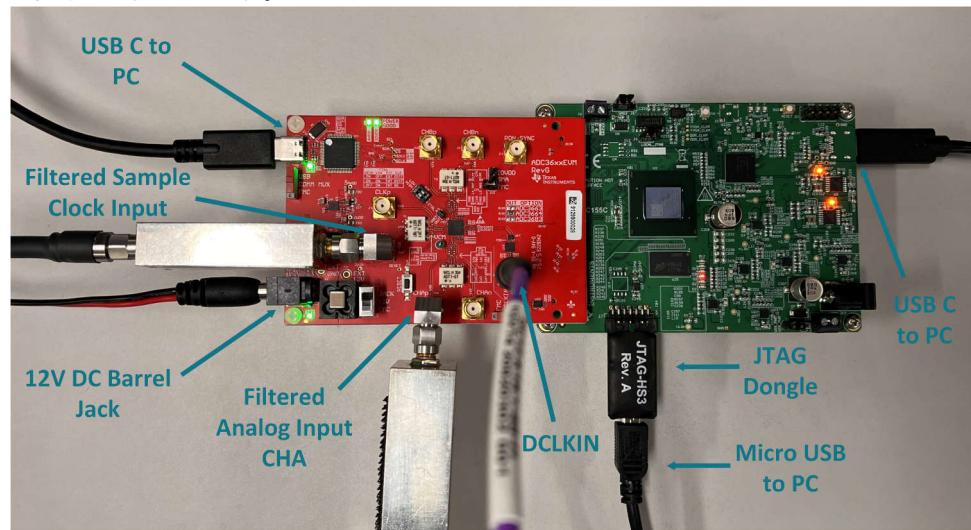


図 4-11. ADC3664EVM のハードウェア設定

8. HSDC Pro を起動します。ADC36xxEVM GUI を開く前に、必ず HSDC Pro が起動していることを確認してください。

セットアップ手順

9. ボードへの接続を求めるメッセージが表示された場合は、「cancel」(キャンセル)を選択します。GUI は、その他の HSDC Pro に関するキャプチャおよび設定操作をすべて自動で処理します。

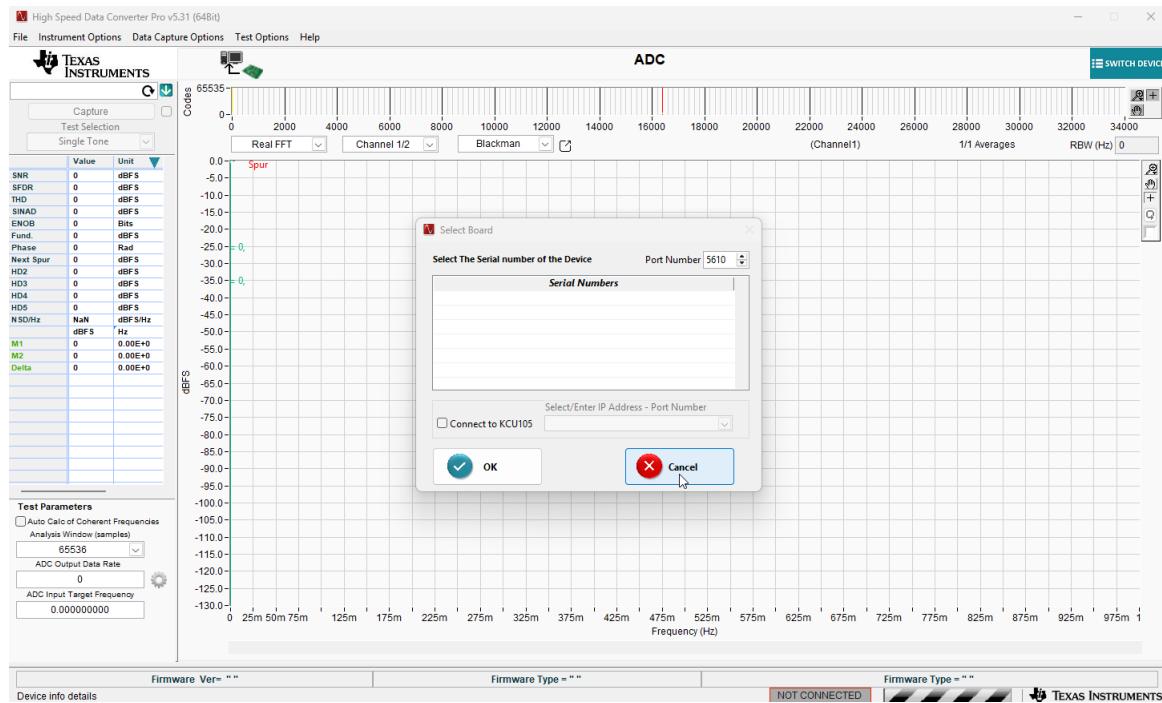


図 4-12. HSDC Pro

10. ADC36xxEVM GUI を起動します。GUI が TSWDC155EVM FPGA キャプチャボードに接続するまで、数秒待機してください。接続が確立されると TSWDC155EVM の電源が入り、下図のように複数の LED が点灯します。

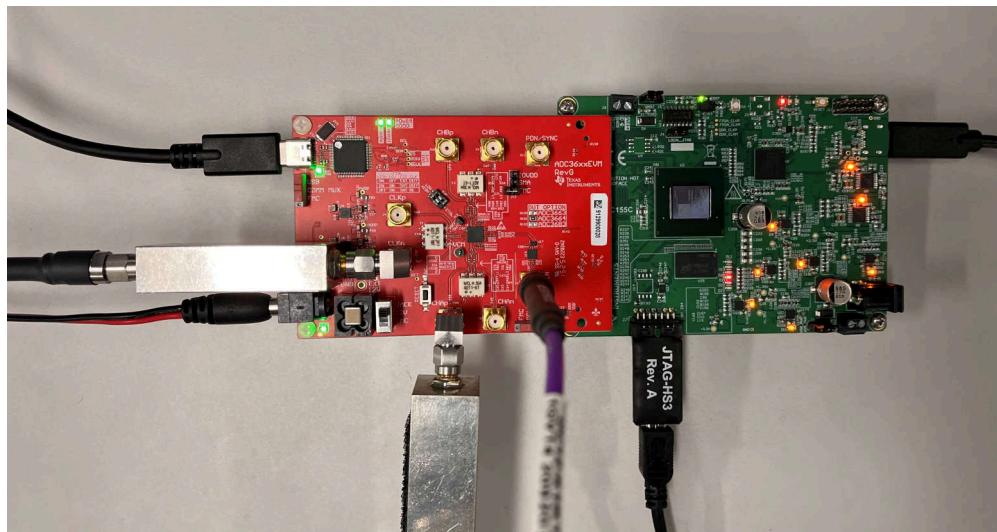


図 4-13. TSWDC155EVM の電源がオンになった状態

11. GUI ウィンドウが開いたら、目的のモードに応じて設定を行うことができます。デフォルトでは、GUI は 2 線式バイパスモードに設定されています。これら 2 つのデフォルト設定はそのまま問題ありません。バリアントを ADC3664、分解能を 14 ビット、クロッキング サンプル周波数を 125MHz に設定してください。

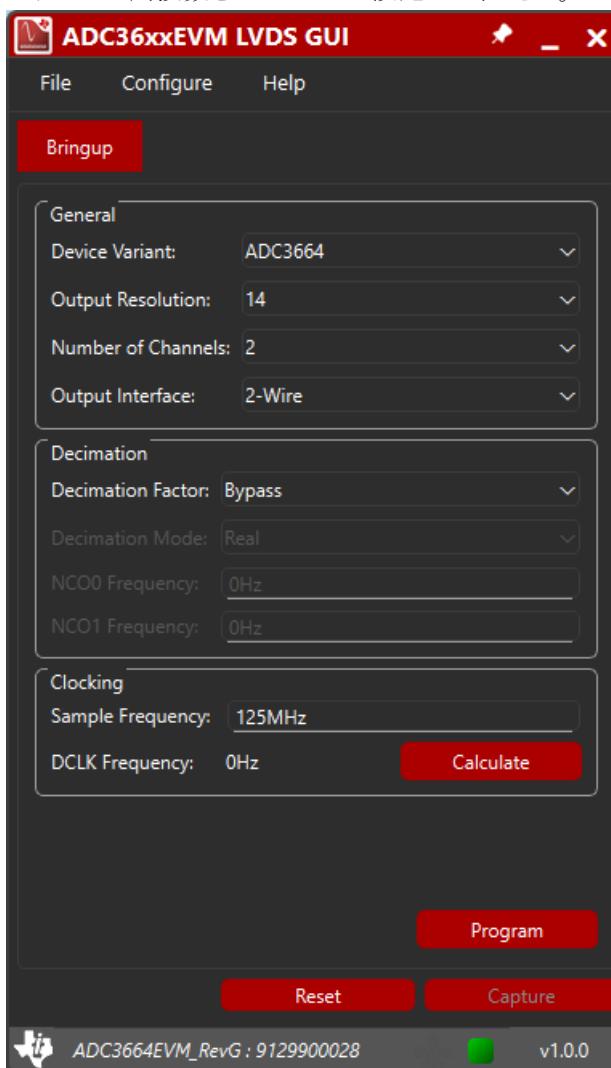


図 4-14. ADC36xx LVDS GUI デフォルト設定(ADC3664 構成時)

12. ADC モードを選択したら、「Calculate」(計算) ボタンを選択して必要な DCLK を計算します。このモードでは、DCLK は 437.5MHz である必要があります。この信号がハードウェア セットアップ上の DCLK 入力に正しく供給されていることを確認してください。

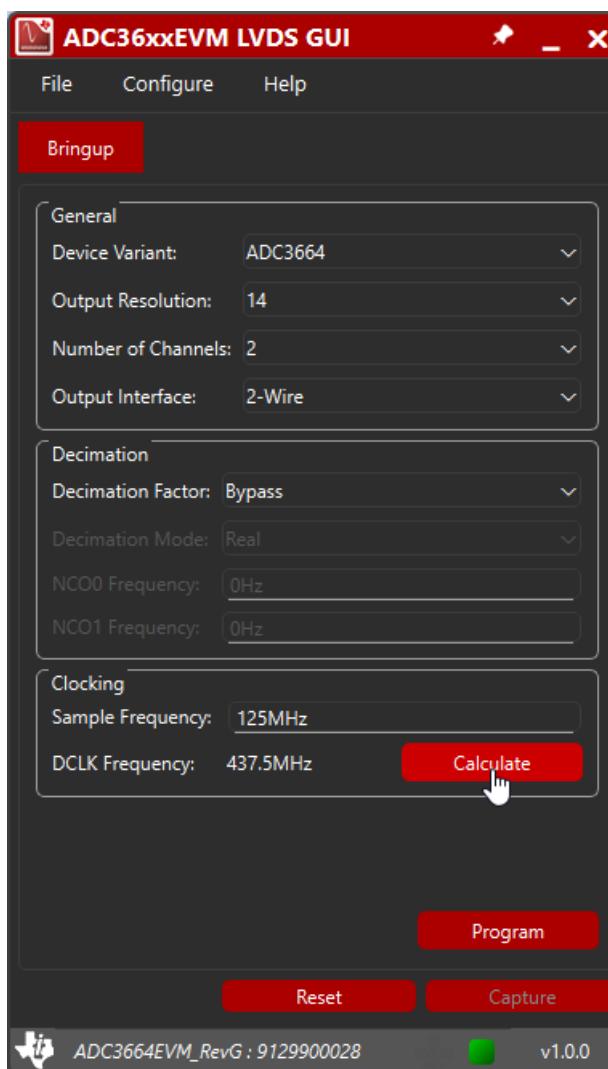


図 4-15. ADC3664 用 DCLK 周波数の計算

13. 「Program」(プログラム) ボタンを選択します。ADC のプログラム、FPGA のプログラム、および FPGA フームウェアの構成が完了するまで、数秒待機してください。

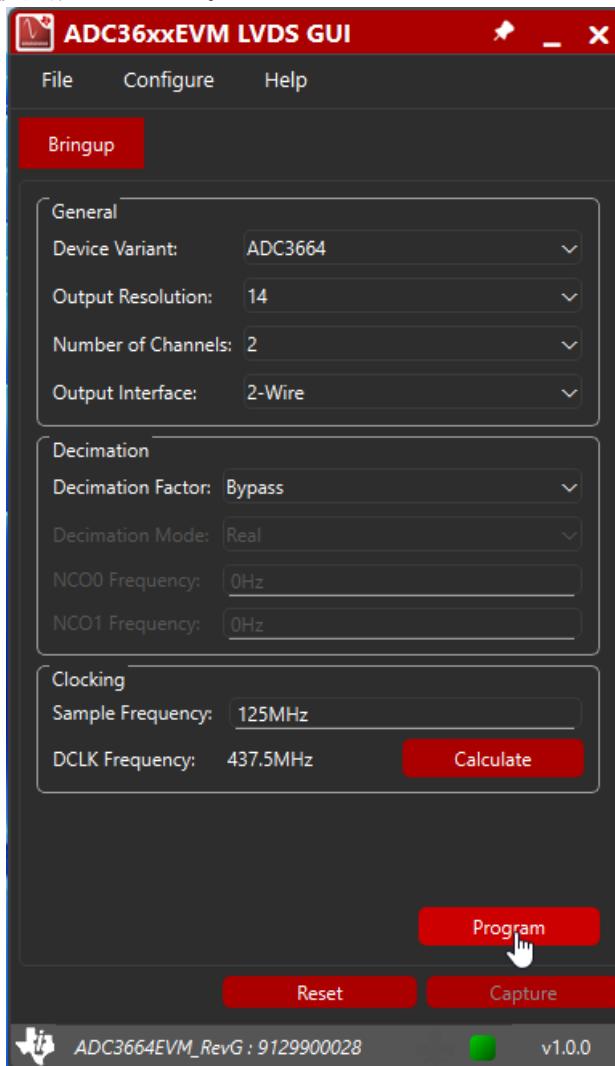


図 4-16. ADC3664EVM のプログラミング

14. プログラミングが完了したら、「Capture」(キャプチャ) ボタンを選択して FFT データキャプチャを実行します。

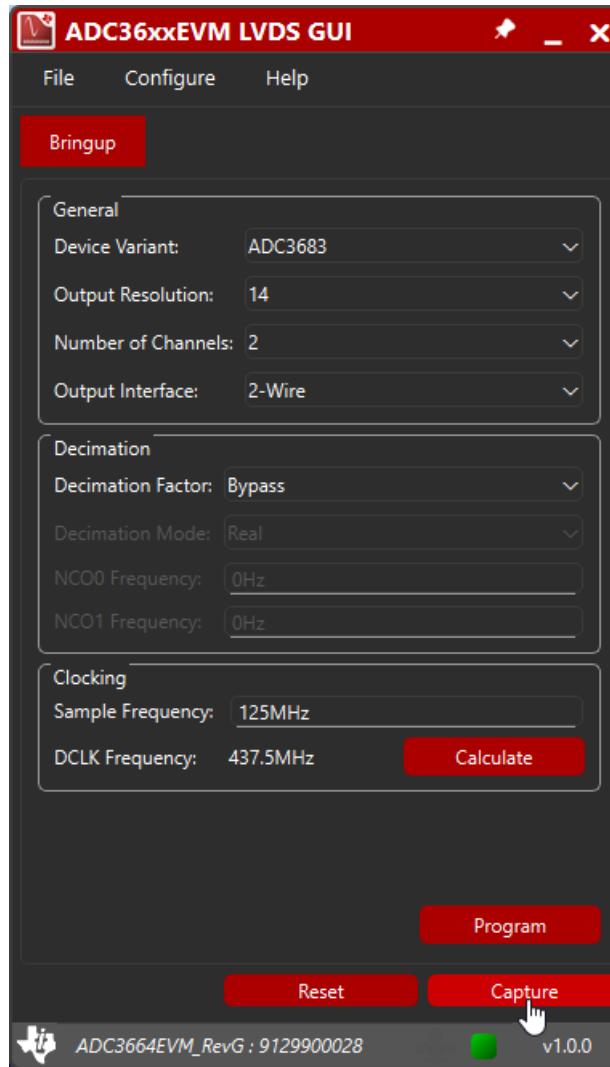


図 4-17. FFT のキャプチャ

セットアップ手順

15. 数秒後、キャプチャされたデータが HSDC Pro ウィンドウに表示され、デバイスの性能を確認できます。HSDC Pro のその他の機能や詳細については、HSDC Pro ユーザー ガイドを参照してください。

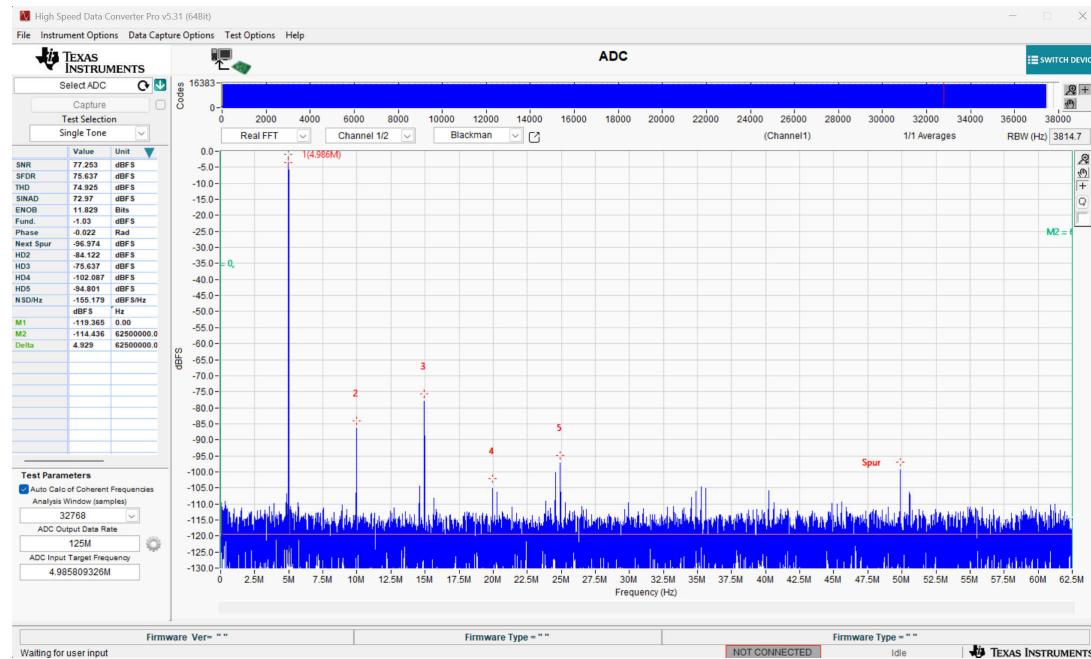


図 4-18. HSDC Pro における ADC3664EVM の FFT データキャプチャ

16. キャプチャ機能の実行中にエラーが発生した場合は、GUI を再起動し、手順 5~8 を再度実施してください。

4.3 ADC3663EVM のセットアップ

1. ソフトウェアが「ソフトウェア セットアップ」セクションに従って正しく設定されていることを確認してください。
2. ハードウェアが「ハードウェア セットアップ」セクションに従って正しく構成されていることを確認してください。
3. CLK 信号を供給するには、以下の手順を実施します。
 - a. SMA ケーブルおよびインライン 65MHz バンドパス フィルタを使用して、信号発生器を ADC3663EVM 上の CLK_n SMA コネクタ (J5) に接続します。
 - b. 信号発生器の出力信号周波数を 65MHz、信号振幅を +10dBm に設定します。
4. EVM はデフォルトでシングルエンド入力に対応するよう構成されているため、アナログ入力はチャンネル A 用の CHAp コネクタ (J7) またはチャンネル B 用の CHBp コネクタ (J9) に入力してください。アナログ入力を供給するには、以下の手順を実施します。
 - a. SMA ケーブルおよびインライン 5MHz バンドパス フィルタを使用して、信号発生器をアナログ入力チャンネル A に接続します。
 - b. 信号発生器の出力信号周波数を 5.135MHz (素数) に、出力レベルを 0dBm に設定します。
5. DCLK 信号を供給するには、次の手順を実施します。
 - a. SMA ケーブルを使用して、信号発生器を DCLKIN SMA コネクタ (J6) に接続します。
 - b. 信号発生器の出力周波数を 260MHz (16 ビット、2 ワイヤ、DDC バイパス) に設定し、信号振幅を +2dBm に設定します。
6. クロック、アナログ入力、および DCLK 用のすべての信号発生器が、背面の 10MHz リファレンス出力を使用してリフアレンス ロックされていることを確認してください。この例については、下図を参照してください。

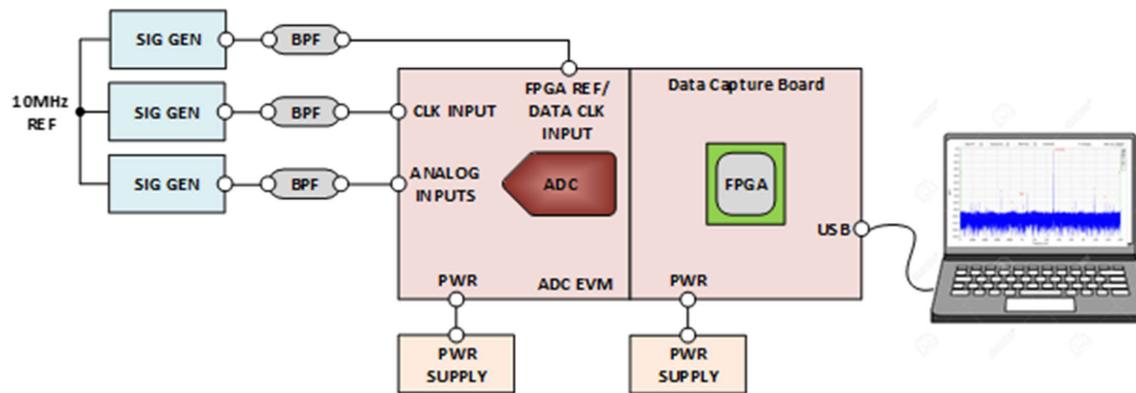


図 4-19. 基本テスト測定セットアップ

7. セットアップは以下のようになります。

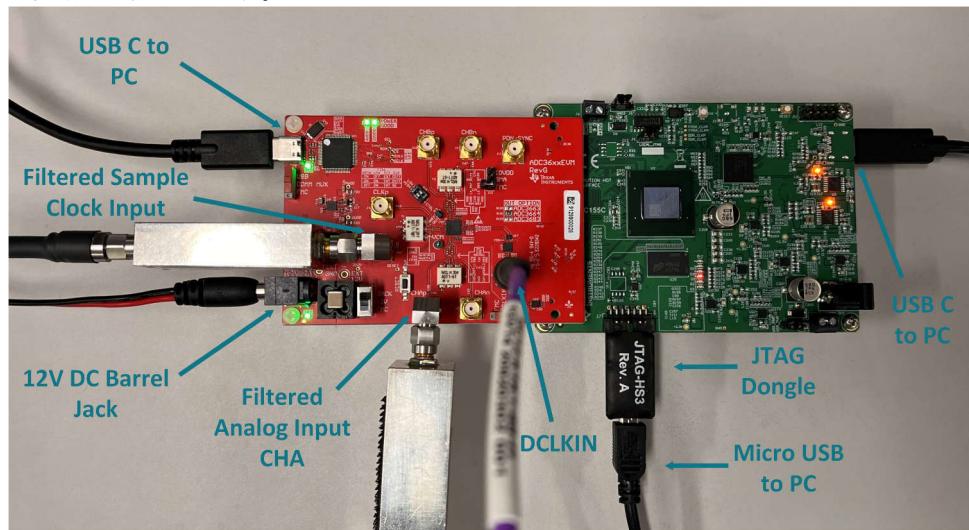


図 4-20. ADC3663EVM のハードウェア設定

8. HSDC Pro を起動します。ADC36xxEVM GUI を開く前に、必ず HSDC Pro が起動していることを確認してください。

セットアップ手順

9. ボードへの接続を求めるメッセージが表示された場合は、「cancel」(キャンセル)を選択します。GUI は、その他の HSDC Pro に関するキャプチャおよび設定操作をすべて自動で処理します。

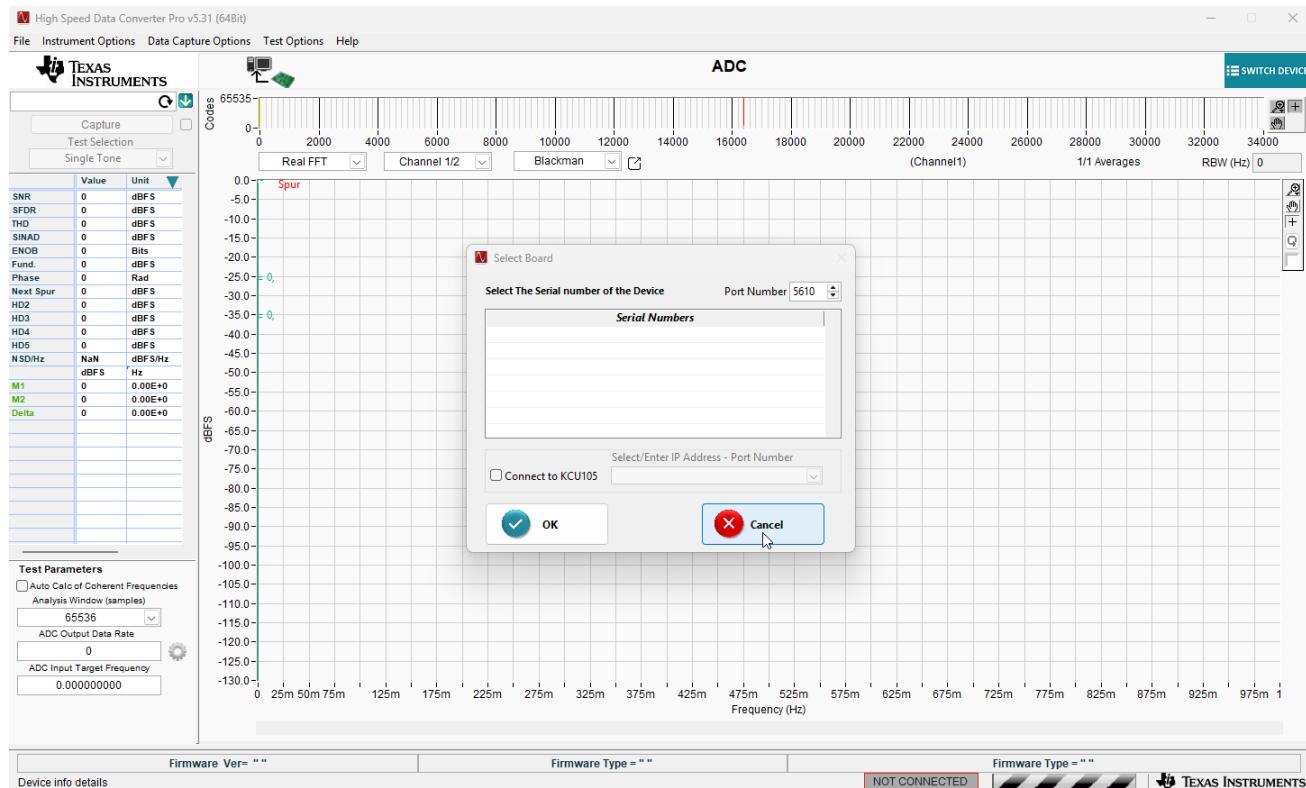


図 4-21. HSDC Pro

10. ADC36xxEVM GUI を起動します。GUI が TSWDC155EVM FPGA キャプチャボードに接続するまで、数秒待機してください。接続が確立されると TSWDC155EVM の電源が入り、下図のように複数の LED が点灯するようになります。

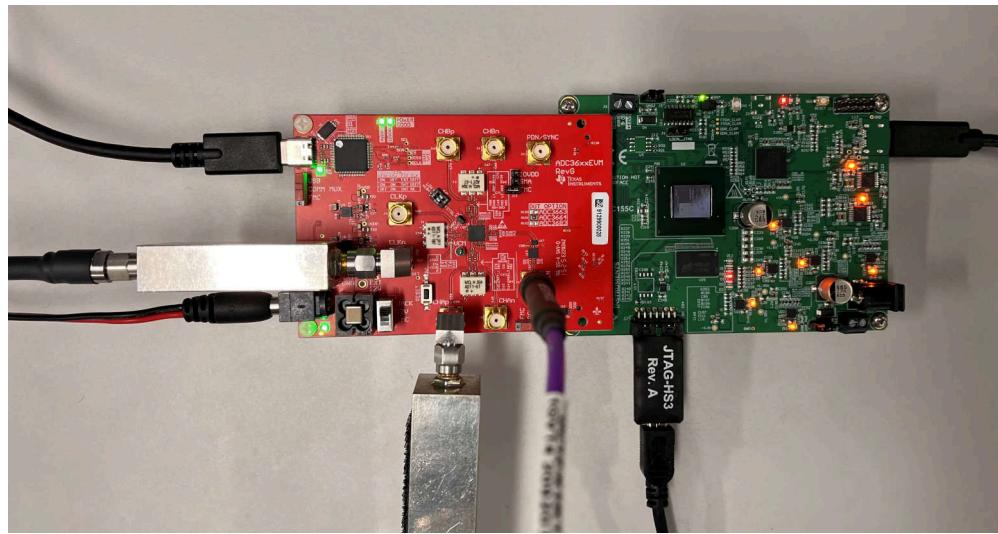


図 4-22. TSWDC155EVM の電源がオンになった状態

11. GUI ウィンドウが開いたら、目的のモードに応じて設定を行うことができます。デフォルトでは、GUI は 2 線式バイパスモードに設定されています。これら 2 つのデフォルト設定はそのまま問題ありません。バリアントを ADC3663、分解能を 16 ビット、クロッキング サンプル周波数を 65MHz に設定してください。

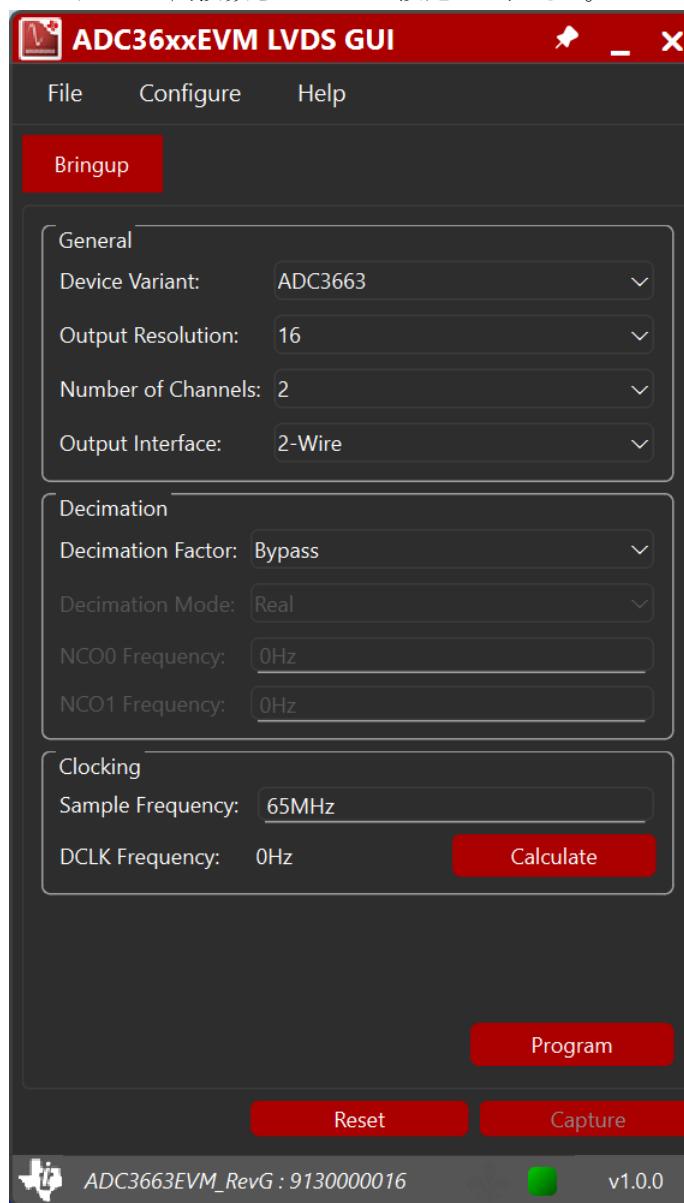


図 4-23. ADC36xx LVDS GUI デフォルト設定(ADC3663 構成時)

12. ADC モードを選択したら、「Calculate」(計算) ボタンを選択して必要な DCLK を計算します。このモードでは、DCLK は 260MHz である必要があります。この信号がハードウェア セットアップ上の DCLK 入力に正しく供給されていることを確認してください。

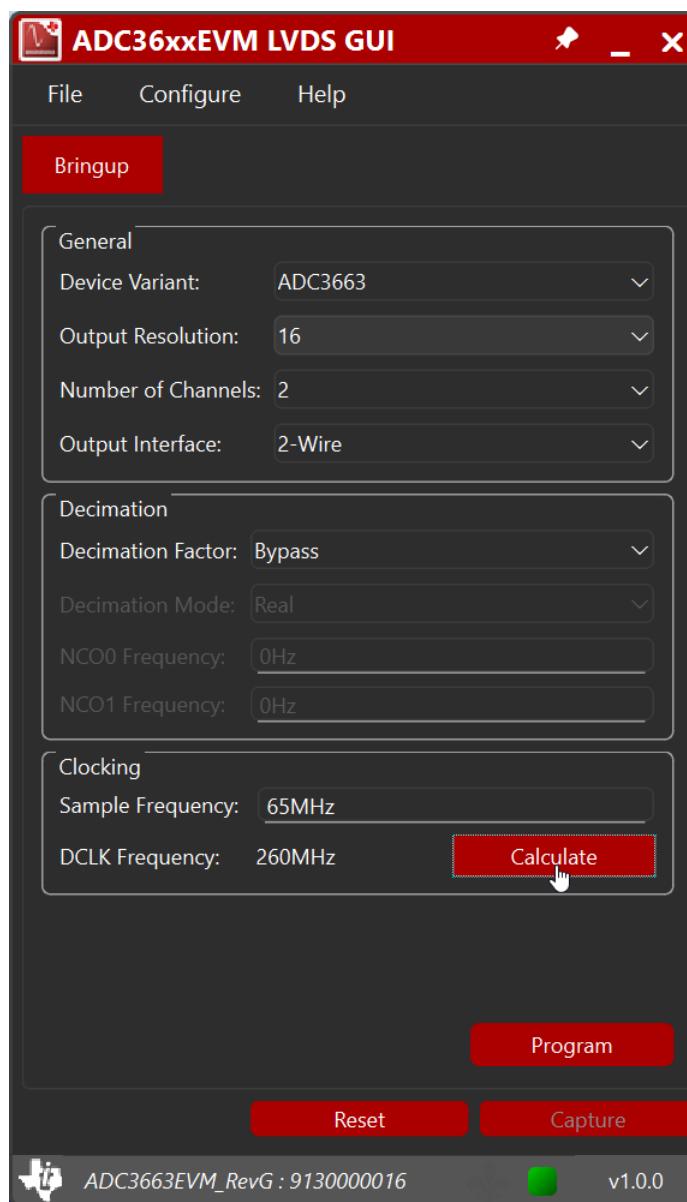


図 4-24. ADC3663 用 DCLK 周波数の計算

13. 「プログラム」ボタンを選択します。ADC のプログラム、FPGA のプログラム、および FPGA フームウェアの構成が完了するまで、数秒待機してください。

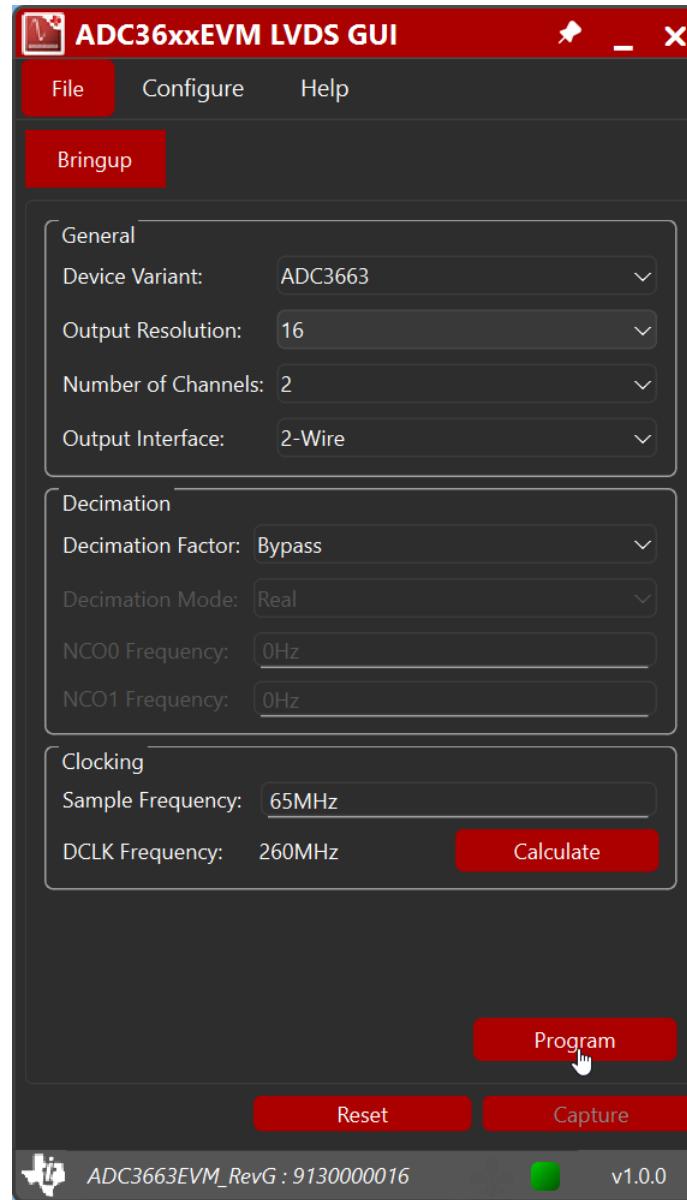


図 4-25. ADC3663EVM のプログラミング

14. プログラミングが完了したら、「Capture」(キャプチャ) ボタンを選択して FFT データキャプチャを実行します。

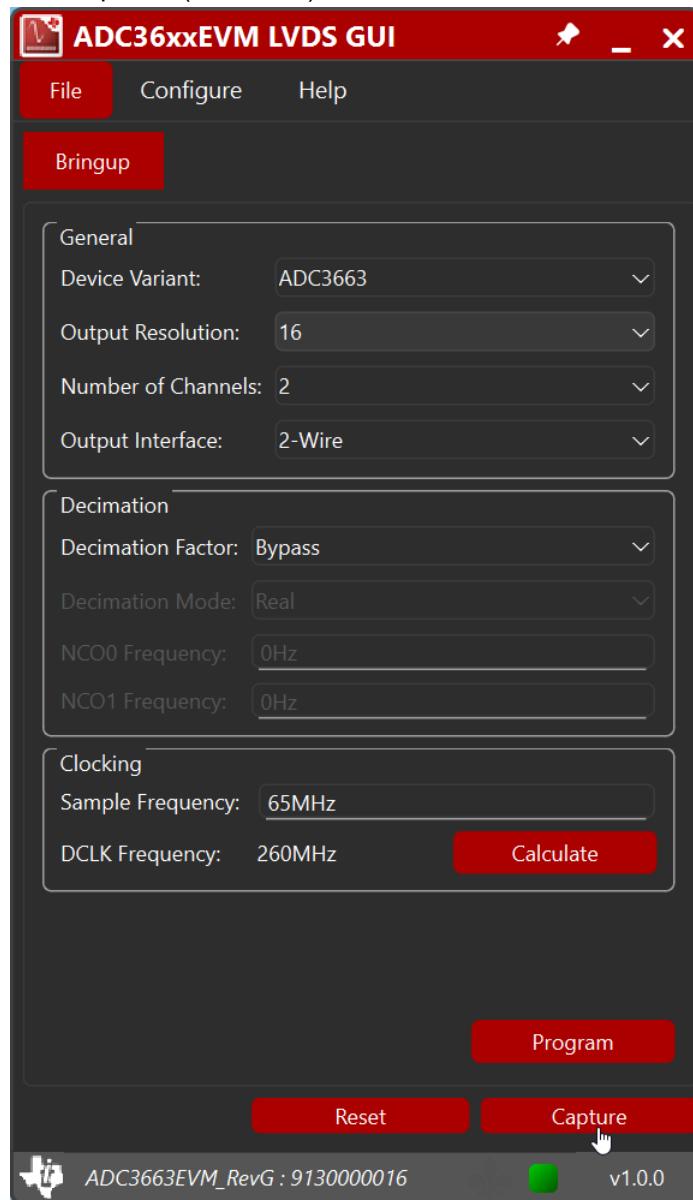


図 4-26. FFT のキャプチャ

15. 数秒後、キャプチャされたデータが HSDC Pro ウィンドウに表示され、デバイスの性能を確認できます。HSDC Pro のその他の機能や詳細については、HSDC Pro ユーザー ガイドを参照してください。

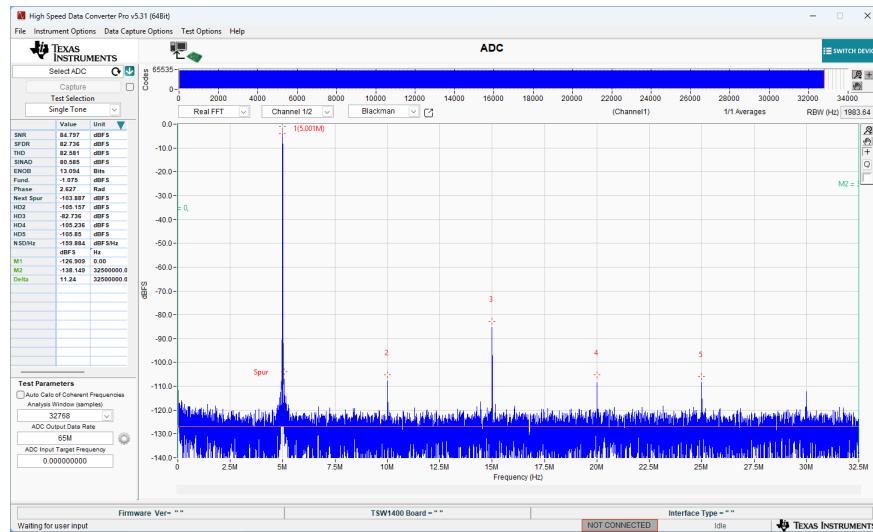


図 4-27. HSDC Pro における ADC3663EVM の FFT データキャプチャ

16. キャプチャ機能の実行中にエラーが発生した場合は、GUI を再起動し、手順 5~8 を再度実施してください。

5 ハードウェア設計ファイル

以下の設計ファイル (回路図、PCB レイアウト、および部品表 (BOM)) は、製品ページで入手可能です。
[ADC3663EVM](#)、[ADC3664EVM](#)、および [ADC3683EVM](#)。

6 追加情報

6.1 商標

すべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。

7 参考資料

- テキサス・インスツルメンツ、[ADC3663EVM](#) 製品ページ
- テキサス・インスツルメンツ、[ADC3664EVM](#) 製品ページ
- テキサス・インスツルメンツ、[ADC3683EVM](#) 製品ページ
- テキサス・インスツルメンツ、[TSWDC155](#) 評価基板、ユーザーズ ガイド
- テキサス・インスツルメンツ、[High-Speed Data Converter Pro GUI](#)、ユーザーガイド
- テキサス・インスツルメンツ、[ADC366x](#) 16 ビット、0.5MSPS ~ 65MSPS、低ノイズ、低消費電力、デュアル チャネル ADC、データシート
- テキサス・インスツルメンツ、[ADC3664](#) 14 ビット、125MSPS、低ノイズ、低消費電力、デュアル チャネル ADC、データシート
- テキサス・インスツルメンツ、[ADC368x](#) 18 ビット、0.5 ~ 65MSPS、低ノイズ、超低消費電力、デュアル チャネル ADC、データシート

8 改訂履歴

資料番号末尾の英字は改訂を表しています。その改訂履歴は英語版に準じています。

Changes from Revision A (October 2023) to Revision B (October 2025)

Page

- ドキュメント全体を通してタイトルと一般的なフォーマットを更新..... 1

重要なお知らせと免責事項

TIは、技術データと信頼性データ(データシートを含みます)、設計リソース(リファレンス デザインを含みます)、アプリケーションや設計に関する各種アドバイス、Web ツール、安全性情報、その他のリソースを、欠陥が存在する可能性のある「現状のまま」提供しており、商品性および特定目的に対する適合性の默示保証、第三者の知的財産権の非侵害保証を含むいかなる保証も、明示的または默示的にかかわらず拒否します。

これらのリソースは、TI 製品を使用する設計の経験を積んだ開発者への提供を意図したもので、(1)お客様のアプリケーションに適した TI 製品の選定、(2)お客様のアプリケーションの設計、検証、試験、(3)お客様のアプリケーションに該当する各種規格や、その他のあらゆる安全性、セキュリティ、規制、または他の要件への確実な適合に関する責任を、お客様のみが単独で負うものとします。

上記の各種リソースは、予告なく変更される可能性があります。これらのリソースは、リソースで説明されている TI 製品を使用するアプリケーションの開発の目的でのみ、TI はその使用をお客様に許諾します。これらのリソースに関して、他の目的で複製することや掲載することは禁止されています。TI や第三者の知的財産権のライセンスが付与されている訳ではありません。お客様は、これらのリソースを自身で使用した結果発生するあらゆる申し立て、損害、費用、損失、責任について、TI およびその代理人を完全に補償するものとし、TI は一切の責任を拒否します。

TI の製品は、[TI の販売条件](#)、[TI の総合的な品質ガイドライン](#)、[ti.com](#) または TI 製品などに関連して提供される他の適用条件に従い提供されます。TI がこれらのリソースを提供することは、適用される TI の保証または他の保証の放棄の拡大や変更を意味するものではありません。TI がカスタム、またはカスタマー仕様として明示的に指定していない限り、TI の製品は標準的なカタログに掲載される汎用機器です。

お客様がいかなる追加条項または代替条項を提案する場合も、TI はそれらに異議を唱え、拒否します。

Copyright © 2025, Texas Instruments Incorporated

最終更新日：2025 年 10 月